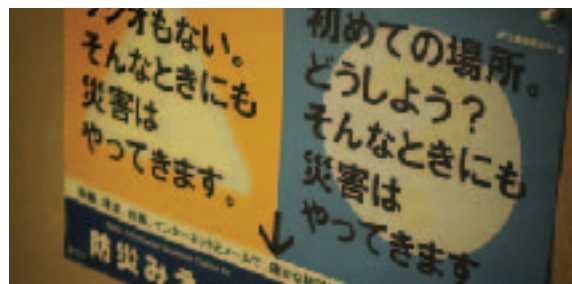




三重大学大学院工学研究科(工学部建築学科)・災害対策プロジェクト室・助教授
川口 淳
Kawaguchi Jun

[URL] <http://www.s.arch.mie-u.ac.jp/~jkawa/>

地域住民ひとり1人の力が 地域防災力向上のカナメです。



SPECIAL EDITION
地震・津波

巨大地震・津波から
我が身を守る第一歩は想像力

● 地域の取りくみを世界へ ●

ここで紹介したさまざまな、地域における取りくみを、1月24日~27日にタイ・バンコクで開催されたAPAN(アジア太平洋会議)で発表し、大きな注目を集めました。



SPECIAL EDITION

「9%」。これは、去る2004年9月5日深夜に発生した地震(三重県内で最大震度5弱を記録)直後に、高台に避難した人の割合^{※1}です。この数字は、現在この地方で発生が予想されている東南海地震の事を考えるとあまりにも低く、いざというときに行動を起こせない人が大多数だということを示しています。

この最大の理由は、大地震・大津波が発生したら自分自身がどのような状況におかれるかという「想像」が出来ていないからです。「地震・津波から身を守るためには...」というテレビ番組、新聞記事、行政のパンフレットがあって、どうすればよいか具体的な事例がたくさん紹介されていますが、自分の身に何が起るか「想像」出来ない人にとってそれらはなんの役にも立ちません。

記憶に新しい地震被害として、10年前の兵庫県南部地震と昨年の新潟県中越地震による被害があります。これらの地震の被害を教訓に想像力を働かせましょう。加えて言うなら、今我々が直面している東南海地震に代表される海洋型の巨大地震は、この二つの地震と違い、被災地が狭い地域に限定されません。昨年未だに発生したスマトラ沖大地震の様に、東は神奈川県から西は九州沿岸まで広い地域で大きな被害が同時に起こる可能性が大きいのです。

その時のために私たちは、地震・津波が発生したらどうなるかを自分の問題として考えるべきです。それが、我が身を守る第一歩なのです。

【※1】三重県と三重大学災害対策プロジェクト室が、2004年9月5日の地震について共同で行なった県民行動調査の結果。対象地域は、津波警報が発令された伊勢市以南の海岸線を有する市町村の津波被害が予測される地域の住民。



◀地図をかこんだ、住民どうしの話し合い



▲地域住民の皆さんが作成した防災マップ



● 災害対策プロジェクト室(DMPO) ●

三重大学災害対策プロジェクト室(DMPO)は、学内の防災関連教育・研究の推進とあわせて、三重県における地域防災のサポートを、行政サイドと住民サイドの両面から行なっています。15ページの写真は、住民参加の取組みの一例で、牡蠣で有名な鳥羽市浦村町今浦地区(人口約400人)の津波避難訓練および防災マップの作成の様子です。このような住民の皆さんの一人一人の力が地域の防災力を確実に高めます。皆さんの地域でこのような取組みを行ないたいと思っているけれど、どうしたらよいかわからないというときは、お気軽にご相談ください。



▲▼地域における津波避難訓練の様子

